

上昇気流

新しい年を迎えて、また新しい言葉を聞くようになった。「アジアハイウェー

一号」である。日本から韓国を経てトルコまでアジア大陸を横断することになる、延べ十三万キロにおよぶ高速道路だ▼日本国内のルートはまだ決まっていない。この道路を結ぶ多国間政府協定に参加するため、日本も年内には選定しなければならぬという。福岡から中国縦貫道、名神、東名、そして東京というルートが挙がっている▼日本はシルクロードの終着点だから、一号の起点は奈良か京都にすべきだ、という声もある。日本と韓国の文化交流を歴史絵巻に再現した「ワッソ祭り」は、大阪で行われてい

るから、この都市も名乗り出るかもしれない▼ところで、このルートで抜けているのが、韓国の釜山と九州を結ぶ対馬海峡の部分である。海上を船で渡って上陸と考えられているが、ここに日韓トンネルを造ろうという構想があることも、見逃すことができない▼海底トンネルが建設されることで日本と韓半島が「地続き」になれば、両国の交流はいっそう深く、親密になり、それはかりか、北朝鮮の経済開放を促すことにもつながっていくからだ▼南極観測隊の第一次越冬隊長を務め、晩年は原子力開発に尽力した西堀栄三郎さんも、このトンネルの構想を推進した技術者の一人。著作集の最後は、遺言のようにこのトンネルの話題で締めくくられている。